

CEFR(Common European Framework of Reference for language)はヨーロッパで第二外国の教育/学習の共通の枠組みであり、欧米では広く導入されつつあります。語学能力レベルは6つのレベル(A1, A2, B1, B2, C1, C2)に分けて、語学能力の評価尺度は例示的能力記述文(The illustrative scales of descriptors)で定義されています。

レベル		能力記述
熟達した言語使用者 Proficient User	C2 (Advanced)	言語の非常に幅広い範囲を包括的にかつ正確にマスターしたものを使いこなすことができ、考えていることを精確に言語で表現でき、強調することができ、違いを明らかにでき、あいまいさをなくすることができる。 ☆状況にあった文体で、はっきりと流暢に記述・論述ができる。 ☆慣用表現、口語体表現をよく知っていて、いかなる会話や議論でも無理なくこなせる。
	C1 (Pre-Advanced)	広い範囲の内容が厳しく長いテキストを理解することができ、含まれている意味を把握できる。 ☆複雑な話題を、派生的問題にも立ち入って、詳しく論ずることができ、適切な結論でまとめ上げることができる。 ☆言葉をことさら探さずに流暢に自然に自己表現ができる。
自立した言語使用者 Independent User	B2 (Intermediate)	自分の専門分野で、技術的な議論も含めて具体的なものと抽象的なものとの話題に関する複雑なテキストの主要な内容を理解できる。 ☆自分の興味関心のある分野であれば、幅広い話題について、明瞭で詳細な説明ができる。 ☆流暢に自然に会話をすることができ、母語話者と普通にやり取りができる。
	B1 (Pre-Intermediate)	仕事、学校、余暇などで普段出会うような身近な事柄について、はっきりとした標準的な話し方であれば主要点を理解できる。 ☆簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望、野心を語ることができる。 ☆英語圏の旅行中に最も起こりやすいたいの状況に対処することができる。
基礎段階の言語使用者 Basic User	A2 (Basic-User)	簡単で直接的な情報のやり取りを必要とする単純で日常的な仕事において、身近で日常の事柄について、やりとりができる。 ☆家族、周囲の人々、居住条件、学歴、職歴を簡単な言葉で説明できる。 ☆単純な日常の仕事の中で、情報の直接的なやり取りが必要ならば、身近な話題や活動について話し合いができる。
	A1	具体的な形での必要なことを満足させるための、よく使われる日常的表現とごく基本的な言い回しを理解し、用いることができる。 ☆どこに住んでいるか、また、知っている人達について、簡単な語句や文を使って表現できる。 ☆相手がゆっくり話し、繰り返したり、言い換えたり、自分の表現したいことに助け舟を出したりしてくれば、簡単なやり取りをすることができる。

【参考情報】

NHKでは、世界に発信できる英語の基礎を着実に身につける工夫として、2012年春からの英語講座を、国際標準として注目を集めているCEFRのレベル分けに対応した6つのレベルに再編成しています。